

授業情報誌 Class 第10号発刊にあたって

創刊から10年を迎える 「授業情報誌 Class」に思うこと

今年度も「指定研究の授業情報誌 Class」を、会員の皆様にお届けすることできて嬉しく思います。発行に向けて、執筆等にご尽力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

また、今回は特別寄稿として、京都大学大学院准教授 石井英真様より玉稿を賜りました。令和6年12月に文部科学大臣から中央教育審議会にむけた諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」が出され、次期学習指導要領改訂に向けた議論が進む中、『次期学習指導要領改訂に向けた議論のポイントを整理しつつ、学習内容の重点化が必要とされる背景を明確にする。そして、重点化を行う際の指針やそれが深い学びの実現にどうつながるかについて述べたい。』と始まる石井様からいただいた論文は、今を見つめ、未来を指向し、深い学びにいたる授業の実現を目指している、私たち新潟県中学校教育研究会の取組の拠り所となるものと、大変ありがたく感じております。公私にわたってご多用の中、示唆に富んだ論文をお寄せいただいた石井様に心より感謝を申し上げます。

さて、本誌の画期的な点は、指定研究の2年次研究会の開催の前に発行するという点です。単なる研究のまとめの冊子ではありません。

事情があって、開催期日を早い時期に設定せざるを得ない研究会を除き、多くの場合、会員はこの授業情報誌 Class を研究会に持参し、各教科・領域のこれまでの研究実践の足跡をたどりながら参加します。いわゆる研究校などの研究会では、研究紀要を研究会当日に合わせて発行し、参会者が研究の取組を目の前の授業で確かめることができるようにします。さらには、研究の内容や方法を、参会者が自校化することまでも期待して提案するのです。

新潟県中学校教育研究会

会長 金山 光宏

(新潟市立白新中学校 校長)



私たちの研究は、広域な県土において、県内各地に会場校が分散し、開催日もそれぞれに異なります。そんな状況の中、1つの学校が研究会に研究紀要を用意して研究会を開くがごとく、この授業情報誌Classによって、県中教研の研究の取組が、研究会当日の生徒の姿で確かめられ、会員はそれぞれの学校に持ち帰り、明日からの実践に生かすことを可能にしています。

そんな授業情報誌Classも、今回の発行が10号となります。創刊から10年を迎えるのです。編集の意図はその時々を反映し、工夫しながら発行を重ねてきているものと捉えています。

しかしながら一方で、授業情報誌Classが映し出す『いつの時代も変わらない風景』があります。それは、「県中教研の研究推進は、全県一枚岩である」ということと、「会員は、常に、ひたむきな研究実践を積み重ねている」ということです。このように考えると、授業情報誌Classは、私たち新潟県中学校教育研究会の誇りの表れともいえます。今後も大切にしていきたいと考えます。

さあ、今年度も、2年次研究会が開催されます。この授業情報誌Classを持って、深い学びにいたる授業づくりに参画しましょう。そして、授業で輝く生徒と教師の姿から、多くのことを学び取ってきましょう。